

平成19年10月1日発行 毎月1回発行 昭和31年9月12日第3種郵便物認可 第52巻第10号 通巻658号

商店建築

SHOTENKENCHIKU MONTHLY MAGAZINE OF SHOP DESIGN & INTERIOR DESIGN

FEATURE ARTICLE 1 | 和食&レストラン
FEATURE ARTICLE 2 | オフィス空間
SPECIAL FEATURE | プロダクトデザイン

2007
OCTOBER
VOL.52
No.10

10

SHOTENKENCHIKU-SHA
CO.,LTD.

ジャンルやカテゴリーを越えて活躍するデザイナーが増えている。単に機能やカタチを与えていくだけではなく、デザインが一つのコミュニケーションを生み、それが生活や環境を豊かにするという考え方が広がってきているからであり、視点や発想の違い、新しさを持つことがそうしたデザインを生み出すカギになっているからであろう。この特集では、そうした視点に基づき、三つの記事を構成。ここから、空間や店舗の設計者にとっても次代のデザインを生むヒントを見つけてもらいたい。

プロダクトデザイナー

特集

1 新世代のプロダクトデザイナーに聞く

30歳前後の若い世代のデザイナーに着目し、視点と発想、活動の自由さなど、これまでの枠に捕らわれない現在進行形のデザイナーのあり方を取材。

2 最新プロダクトコレクション

空間デザイナーの最新プロダクトを中心とした10のプロダクトデザインを紹介。
撮影/太田拓実 (184ページを除く)

3 日本発信型の家具デザイン

今年1月、アルフレックス ジャパンから発表された、現代日本の美意識をテーマにした新ブランド「AUN」。デザイナーとして抜擢された二人のデザイナーの話を中心に、その開発ストーリーを追う。

SUKIGAMI

手漉き和紙を使ったロールスクリーン

D: 大塚則幸

Designer Noriyuki Otsuka

光の柄をデザイン

2007年10月よりカーテンレール/ブラインドメーカー、トソーのプレミアムブラインド「GRACIER」が、住空間向け新商品として手漉き和紙を使用したロールスクリーン「SUKIGAMI」を発売した。

この開発プロジェクトにおいてスクリーンを彩る柄のデザインが依頼された。マテリアルとなる手漉き和紙は、日本画壇では最上級とされている越前和紙。その老舗問屋である杉原商店を通じてデザインをすることとなった。また越前は僕の出身地でもあり(福井県武生市、現在は越前市)地元スクリンに錦を飾るデザインだ。

デザインするにあたり、“オリジナリティー” “和風を意識しない現代性”、更に“品質性能が満足できるもの”との課題が与えられた。都市の住宅ではスクリーンを閉めたままであることが多いという現状を踏まえ、デザインコンセプトは「光によって表情が変わるスクリーン」とし、和紙の透かし柄によるデザインを提案した。昼間は外光によって柄を際立たせ、内外光がニュートラルとなる夕方は和紙そのものの表情を見せる。夜は室内光でとぼりが落ちた窓辺の表情を豊かにする。時制による光の柄である。幾パターンにもなる柄のスタディーから5パターンが選び出され、商品化に向かって紙漉きの型作りから、原寸サンプルづくりとなった。透かし技法によるデザインの再現性、スクリーンの大きさや多様なサイズ(最大W1200×H2700で10mm単位のオーダー可)への対応などの難題に対し、何度となく試作が繰り返された。完成あいなったスクリーンは、透かして通る光があたかも昆虫の翅のように繊細で美しい商品となった。

(大塚則幸/大塚ノリユキデザイン事務所)

1

1. 「mizu-no-wa」(ブラウン)は水の波紋をイメージしたもの
2. 「ryo-myaku」(ブラック)。柄に合わせて立体的につくられており、陰影を生む
3. 「hana-no-niwa」(シルバーグレー)

2

3

SPECIFICATION

素材:スクリーン/越前手漉き和紙 ロールメカ部/アルミ
カラー:ホワイト シルバーグレー ベージュブラウン ホルダー ブラック
サイズ:W300~1200×H100~2700mm (10mm単位でオーダー可)
参考価格:8万4000円(ロールスクリーン・W900×H2000) 5万3000円(和紙素材のみ・W900×H2000)
問い合わせ先:トソー(株) (03) 3552-2293
www.toso.co.jp/gracier